

随想

中小企業の苦悩

命を賭けたブランド卵への思い

加藤 宏光

東日本大震災で考えられないほどの被害を被った東北地域沿岸部の下請工業が世界の生産に大きな障害を与えたことで、わが国の世界経済を下支えする生産の網の目がいかに細密に組み上げられているのかを改めて実感した。

トヨタや日産をはじめとする自動車生産業界でも、必要とされる部品の供給がストップしたために生産性を極端に落としていた。IT関連を含むその他の工業製品でも、同様に大きな生産性低下が報じられてきた。

六月十一日付け朝日新聞朝刊七面に《生産復旧、大手は目途》という記事が掲載されてい

る。その概要を以下抄訳する。

東日本大震災から三か月で、大企業では被害を受けた生産設備が復旧してきた。自動車業界では、あらゆる部品が不足して、組み立てラインが一か月停止し、三月の各社国内生産は昨年対比五〜六割低下、四月はトヨタ自動車やホンダも八割減の大打撃であった。ここに至りて部品供給が回復し生産正常化への目途が付きつつある。トヨタ、日産の生産はほぼ通常、ホンダも八月までに正常に戻す。電気業界の復帰も急ピッチで、宮城県多賀城のソニーは五月三十日から一部生産を再開、世界最大手自動車用マイコンメーカー、ルネサ

スエレクトロニクスも十日に那加工場（ひたちなか市）を九月に震災前の状況に戻すとした。

以下略

昨日のテレビニュースでは、トヨタ自動車が今年度の収支予想として、大幅に改善して三、〇〇〇億円の利益を上げられるものと発表し、上の記事を裏付けている。

さすがに日本、と思わせる。しかし、過日の経済論評に以下の解説があったことを思い出す（出処不明、多分日経新聞と思う）。

《中小企業のたくましさには改めて感服する。そしてこれらに支えられた日本の大企業が

大きな利益を上げていることも、マスコミ情報で取り上げられている。大震災前のこと。著者注。しかし、大企業の利潤に沿って大きな利益に潤っている下請企業のニュースは極めて少ない。卓越した技術で、大企業要望に応えてその生産を支える中小企業は極めて多いのに、経営状況は厳しい。厳しい条件の元に請け負っているからである。これではなくてはならない部品は多いが、なくてはならない下請業者はなかなかないからである。中小企業は生き残りを賭けて互いに競い合っている。今年の部品生産を請け負えても、来期の請負は約束されていない。発注元

の出す厳しい条件をクリアする他の企業と競り勝つことが生き残りの条件であり、こうした多くの優れた技術力を持つ競合のもとに大企業の生産と利益性が確保されているのである。』

先の朝日新聞の記事では、わが国の経済を支える代表工業製品を生産するシステムは恐ろしいほどのスピードで回復してきている。一方、東北のとくに沿岸地域では、行政の方針も固まらず、多くの中小企業経営者は、雇用を守ろうとしてそれこそ必死の思いで経営存続を模索しているが、再生産にこぎつけているのは、それがまだニュースになる程に少数である。この関係を踏まえて考えれば、大企業の生産ラインはそれまでの部品供給筋とは異なる、同程度以上の性能を有する部品の供給元を確保したことを意味する。つまり、被災した下請生産者が多大な借入を起こして生産を再開しても、大震災前のように供給先が受け入れてくれるかどうかは不透明である。

まさにこの点が、わが採卵業界が高病原性鶏インフルエンザ(HPAI)を恐れる原因である。この冬に発生したHPAIはウインドウレス鶏舎を例外としなかった。

これまで、ウインドウレス鶏舎へはウイルスが侵入しないものと理解していた業界は愕然とした。わが国の被害保障は国際レベルで見てもまずまずの額であろう。しかし、今日市場で流通しているブランド卵は全体の五〇%を超える。

三〇年以上前のように生産しているのがいわゆるレギュラー卵であれば、仲のよい生産者同士で卵を融通し合えば当座は凌げよう。市場もA Iの発生という事態に対しては、以前に比べて随分理解してくれている。しかし代替えが効かないからこそブランド卵であり、そこに付加価値を付けた値付きがある。代替え品で間に合わせられた市場を改めて取り返すことは極めて難しい。それぞれの生産者が思いを込めて生産している個々の

ブランド卵である。

大規模生産者は生産基地を複数持っていることが多い。流通と相談の上で荷繰りの調整で危機を乗り越えることも考えられる。しかし、中小規模で、人生を賭けて作り上げたブランド卵を、HPAI発生という事故で失っては生き甲斐も失せることになろう。

先日、避難指示を受けた酪農生産者が、牛の殺処分を決められて希望を失い自殺する、という悲劇があった。彼は酪農二代目で、遺書に両親に詫びる言葉があった、と報じられた。原発事故は彼には何の責任もない。しかし、親からの家業が二代目で終わる責任を謝罪していることを知ると救いのない思いに駆られる。

《HPAI発生》が、「運が悪い」で済まされ、殺処分が最も良い処置だと断じる門外漢のために、似たような被害者を業界に出すことを許してはなるまい。